

# 企業での介護離職防止に ケアマネ職域を拡大へ

## カイゴと働くを考えるフォーラム

札幌

カイゴと働くを考える  
会は4日、札幌市内で「カ  
イゴと働くを考えるフォー  
ラム」(第2回産業ケ  
アマネフォーラム)をオン  
ライン併用で開いた。生  
産者人口の減る中で介護  
離職が社会課題となる一  
方、実際には離職後にケ  
アマネ、地域包括支援セ  
ンター等につながるケー  
スの少なくない現状が浮  
き彫りとなった。同会は  
今後も企業と介護サービ  
スをつなぐ産業ケアマ  
ネ、ワークサポートケ  
アマネ周知を強化するな  
ど、ケアマネの職域を介  
護保険外にも広げていく  
考えた。

同会は、主に産業ケ  
アマネ、ワークサポー  
トケアマネが社会保険  
労務士、企業の総務・  
人事部門と連携し、介  
護と仕事を両立できる  
よう啓発、研究等行う  
任意団体。2022年  
9月に「第1回産業ケ  
アマネフォーラム in 沖  
縄」未来を想像し備え  
る」を開催した。

札幌市での第2回フ  
ォーラム開催は、同市  
西区で居宅介護支援事  
業所「つなぐ手ケアマ  
ネセンター」を運営し、  
産業ケアマネでもある  
次田芳尚279(つな  
ぐ)代表取締役が実行  
委員長を務めた。

フォーラムでは、N  
PO法人となりのかい



## 産業ケアマネやワーク サポートケアマネ周知強化

基調講演する川内代  
表理事

ご(神奈川県)川内潤

代表理事が「ケアマネ  
ジャーの新しい活躍の  
場」と題し基調講演。

川内代表理事は老人  
ホーム紹介事業、ヘル  
スケア分野

コンサルティング、  
施設・居宅  
介護職を経  
て、08年に

「家族を大  
切に思い一  
生懸命介護  
するからこ  
そ虐待して  
しまうプロ

セスを断ち  
切る」を使  
命とした市  
民団体」と

なるのかい

ごを設立、14年にNP  
O法人化。企業と顧問  
契約を締結し、従業員  
が離職せずに介護でき  
るよう支援している。  
具体的には、従業員  
に向けたセミナーで介  
護保険制度など利用で  
きるサービスを周知。  
そこから相談につなが  
ったケースを、地域の  
専門職と連携し仕事を  
辞めずに介護する方法  
を伴走支援する。

川内代表理事は「家  
族は食事、入浴、排せつ  
等、直接介護するので  
はなく、プロの専門職  
に任せるマネジメント  
こそが役割と認識を変  
えるべき」と強調した。  
パネルディスカッシ  
ョンでは「企業にとつ  
ての働き方改革」介護  
と働くを考えよう」を  
テーマに、産業ケアマ  
ネ、ワークサポートケ  
アマネ、社会保険労務  
士らが意見交換。

家族を介護する従業  
員は勤務先に相談する  
ことなく、離職してか  
ら地域包括支援セン  
ター、ケアマネ等につ  
ながるのが大半を占め  
る。一方、経営者側は  
「介護に悩んでいる従  
業員はいない」と考え  
るケースの多いのが現  
状という。

ケアマネ資格を持つ  
社会保険労務士事務所  
テラス(札幌市)の倉雅  
彦氏は「2年前に企業  
対象の介護離職防止セ  
ミナーを企画したとこ  
ろ、参加者が集まらな  
かった」と報告。  
ワークサポートケ  
アマネの高松誠氏(同)は  
「介護施設・事業所職  
員ですらも、自身の親  
を介護するために離職  
するケースが少なく  
ない」と指摘した。  
第1回フォーラム実  
行委員長を務めた沖縄  
県の産業ケアマネ大城  
五月氏は「現在、顧問契  
約につながったのは1  
社のみだが、問い合わせ  
せは増えてきている」  
ことと、ニーズの高まりを示  
唆。「企業から声の掛か  
るのを待つだけのケア  
マネが多いのでは。ケ  
アマネ側から積極的に  
働き掛けるべき」と呼  
び掛けた。  
北海道介護福祉道場  
あかい花(登別市)菊  
地雅洋代表は「ケアマ  
ネは自分の職能に、あ  
らためて自信を持ち情  
報発信力を強めてほし  
い」と期待を込めた。



パネルディスカッションではケアマネ職域  
拡大の可能性に触れた